



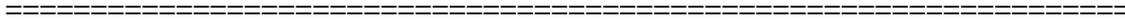
岡山大学法学部だより



※ 本メールは登録された方にのみお送りしています

第 15 号(2010 年 11 月 24 日発行)

発行：岡山大学法学部 学部長室



大学祭も終わり、晩秋を迎えました。法学部だより第 15 号をお届けします。今回は、1953 年に岡山大学第一期生として法文学部をご卒業され、通商産業事務次官、AOC ホールディングス会長などを歴任、現在は AOC ホールディングス参与、また岡山大学同窓会会長を務めておられる小長啓一さんから、卒業生メッセージをいただきました。

目次

- 卒業生からのメッセージ (第 9 回)
- パリ便り ～ソルボンヌからの風～ (第 6 回)
- 法学部からのお知らせ
- 最近の話題

-
- 卒業生からのメッセージ (第 9 回)
-

海外勤務に挑戦すべし

1953 年卒で傘寿を迎えているが、岡山大学同窓会会長を仰せつかっていることもあり、一言申し述べさせていただきます。

最近、経営者の方々から「入社してくる若者で心療内科の世話になる者が増えて困惑している」との話を聞くことが多い。

学生時代にパソコンばかりにかじりついていて、人との付き合い、そこから生まれる友情、恋愛、尊敬、嫉妬等の体験、そしてそれを制御する社会的技法を習得することもなく社会人になっているのではないか。だから入社後上司に厳しい指導を受けると、受け止めるクッションもなく、聞き流すやり方もままならず、全身で対応して神経をすり減らすこととなる。同僚との付き合いもうまく行かない。一杯どうかと誘われても、断ることが多く段々誘われなくなり結局一人で悩み苦しむこととなる。部下もうまくリードできないというわけだ。

いかに優秀であってもこれでは、社会人としてキャリアパスに乗ることは出来ない。人との縁を大事にし堅忍不拔、質実剛健の旧制六高の伝統が生きている岡大では、このような学生は、少ないのではないかと楽観しているが。

グローバル時代に企業が求める人材は、常に前向き思考で、進んで海外勤務を志願し、異文化に溶け込みながら独自性を発揮でき、何よりも心身共に健康である若者である。少し具体的にいえば、<1>構想力、実行力、包容力を備えたリーダー適格の人、<2>一芸に秀でた人、たとえばヴェトナム語がしゃべれる、文明の恩恵の

少ない国での生活に耐えることが出来る、<3>イノベーションに参加できる人である。

大学も、外国の大学との交流を一層活発化し、本学学生の派遣、外国人留学生の受け入れを組織的に進め環境整備を図る必要がある。また、学生諸君は、活発な活動を開始している岡大東京サテライトオフィスを有効に活用して、企業の求人情報の収集、OBとの接触等を進めることを勧める。

T P Pへの参加が議論される時代となった。国と国との間だけではなく、企業間、大学間、学生間の競争も激化することは明らかである。乗り遅れないようにするだけでなく、時代を先取りする先見性と勇気が求められている。現役諸君の一層の奮起を期待する。

小長啓一 (AOC ホールディングス参与)

○ パリ便り ～ソルボンヌからの風～ (第6回)

第6回 ストライキは困るからこそ意味がある？

フランスに住んだことのある人にその社会の特徴を指摘してもらえば、おそらく「デモとストライキの多い国」という答えが返ってくるでしょう。実際、私が4月にパリに来てからでも、すでに大きなストライキを3回、デモに至っては十数回も経験しています。

今年のデモとストライキの標的は、何といたっても年金改革です。現在、フランス政府は、国家財政上の理由から年金受給の資格年齢を漸次的に遅らせるため、公務員などの定年年齢を現行の60歳から62歳に引き上げようとしているのですが、これが従前の既得権を侵害するものとして、労働者と市民の激しい反発を呼び起こしています。9月下旬に行われた大規模デモには、主催者によると300万人（警察発表では100万人）の市民がフランス全土で動員されたようです。

さて、ストが起こると困るのは、何より生活している一般市民です。数年前から、ストに際して事前予告することが法律で義務づけられたため、ある程度は予測して行動できるようにはなりましたが、それでも地下鉄やバスの運行停止または間引き運転が行われると、首都パリの交通網は大混乱に陥ります。また、TGVや国際電車の運休、さらにはエールフランスでも欠航が相次ぐことから、ストの影響はフランス人だけでなく観光等で訪れる外国人にも及びます。もっとも、電車の運休や遅延について会社が責任を負うことはないため、したがって、ストによるリスクを回避しようと思えば、利用者は切符購入の際に自ら保険に加入する必要があります（切符購入の際に保険加入の有無を尋ねられます）。

このように、予告通り始発から終発まで丸一日続くストは、パリやその周辺に住む多くの市民だけでなく、旅行者などの外国人をも巻き込んで、人々の活動に多大な影響を与えます。しかし、よく考えてみると、まさに人々が困るからこそ、ストライキには意味があるのでしょう。労働者にとって、ストライキは、自らの主張を受け入れさせる唯一の効果的な手段だからです。こちらの人もそうした事情を理解しているためか、相次ぐストに不便を感じつつも、どうすることもできず半ばあきらめ気味です。メディアでもストライキに批判が向けられることはほとんどありません。こうした点は、通勤客への影響が出ないように、早々とストが解除されるというわが国の状況とは大きく異なっており、彼我の違いをあらためて思い知らされます。

井上 武史 准教授

○ 法学部からのお知らせ

☆外交講座「国連における決議採択課程（課題）」

日時 12月6日（月）10：25～11：55

場所 一般教育棟 B41番教室

講師 外務省経済局協力開発機構室長

清水 亨 氏

○ 最近の話題

☆第6回ジュニアロースクール岡山が開催されました。

11月13日（土）、法学部・岡山弁護士会主催の第6回ジュニアロースクール岡山が開催されました。当日は、高松からの参加を含め、約50人の中学生、高校生が参加し、福山市鞆の浦景観訴訟を素材にまちづくりと住民相互の利害調整を考えたり、刑事模擬裁判に参加しました。法学部生、法務研究科院生の有志もチューターとして参加し、充実したジュニアロースクールとなりました。

当日の様子は、岡山弁護士会、法学部のHPで紹介する予定です。

☆平成22年度 第2回法学会講演会が開催されました。

11月18日（木）、神戸大学名誉教授の河本一郎先生をお迎えし、今年度2回目の法学会講演会が開催されました。河本先生には、「株主代表訴訟の理論と実務」と題して、具体的な訴訟を素材に、株主代表訴訟の背景、問題点について明快に講演していただきました。当日は、約100名の学部生、法務研究科院生が参加し、熱心に講演を伺いました。

当日の様子は、法学部のHPで紹介する予定です。

.....

- ・本メールマガジンは、岡山大学法学部に関する情報を提供する目的で毎月2回程度配信されています。

- ・岡山大学法学部の詳細情報に関しては、HPも併せてご覧ください。

岡山大学法学部 HP <http://www.law.okayama-u.ac.jp/>

- ・本メールマガジンには返信なさないようにお願いします。

- ・本メールマガジンの配信を希望しない場合やメールアドレスの変更を希望される場合には、以下の URL からご登録・解除ください。

<http://court.law.okayama-u.ac.jp/mail/register.html>

- ・ご意見・ご感想のある場合は、岡山大学法学部 情報委員会 joho@law.okayama-u.ac.jp までお願いいたします。